

研修医プログラムを修了して

研修医プログラムを経験して

予防歯科学分野 田村浩平

私は新潟大学歯学科48期で卒後2年目の現在、新潟大学予防歯科学分野にて大学院生として1年目、研究調査や地域活動、予防歯科外来、一般開業医院や病院歯科でのアルバイトなど、もがきながらも充実した日々を過ごしています。とはいえほぼほぼもがいていますが、そのような時の助けとなるのは、上級の先生方や大学院の先輩方、友人、そして昨年1年間の研修で教えていただいた事です。

研修医プログラム先に新潟大学臨床研修Aコースを選択したのはいくつかの理由がありました。大学院に進学する前に総合的に歯科診療についてトレーニングをしたいということが第一にあり、Aコースでは恵まれた環境で各分野専門の指導医の先生方の元、幅広く研修することができること。患者担当制であり、治療計画から一貫して診療を行うことができること。このようなイメージを研修前から漠然と持っていましたが、実際に1年間の研修を経て、それが非常に貴重なことだったと心から感じています。

指導医の先生方からは、診療手技以外にも、患者様との向き合い方、ものの考え方、進路など、多くのことを教えていただき、指し示していただきました。医員の先生、レジデントの先生、大学院の先生は、指導医の先生に何うには少しためら

われることも、親身になって聞いてくださり、数え切れないほど助けていただきました。心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

2018年4月、ともに研修を送ることになる先生方と出会いました。その中でペアが組まれ（私はトリオ、3人組でした）、お互いに慣れない中、ぎこちなくも励ましあいながら研修がスタートしました。人間ですからぶつかり合うこともありますが、すべてのことが今となっては良い思い出です。お互いに異なる分野に進みましたが、これからも助け合える仲であればと願っており、またそのためには自分自身成長を続けなければと、良い意味での刺激になっています。

日々にもがきながら書いておりますので、まとまりのない文章になってしまい申し訳ありませんが、最後まで目を通していただきありがとうございました。



研修医プログラムを体験して

包括歯科補綴学分野 善本 佑

この度、歯学部ニュースの執筆を賜りました、本学48期生の善本です。

臨床研修が修了してから半年になりましたが、ここで自分の一年間の研修医生活について触れさせて頂きます。これから研修先を選ぶ学生の皆さんには、進路を選択する参考に少しでもなれば幸いです。

私の場合は、6年生の後半になってもAコースに行くかBコースに行くか決めきれずにいました。その頃は、外部の研修先に行くことに少なからず抵抗感のようなものがあつたようにも思います。ただ、臨床実習最後の義歯科のライターの先生との飲み会で後押しされたのをきっかけに、最終的にはBコースでの研修を選択しました。

前半は、義歯診療科でお世話になりました。義歯・Cr-Br・保存症例を中心に多くの診療に携わらせていただいたのと同時に、補綴のエキスパートである指導医の先生の診療を間近で見ることができたことや、技工を通して、学生の頃には理解が未熟だった義歯製作の勘所を学ぶ事が出来ました。

もしも、専門科の診療に興味がある、または、

その分野で分からない事が多いなら、大学にいる間にその専門分野に半年間でもドブプリと浸かってみてもいいのではないのでしょうか。

後半は、地元の兵庫県の開業医の「かい歯科医院」でお世話になりました。

こちらでは、新潟大学からの研修医の受け入れは、私が初めてだったので、先輩からの情報も無く不安だったのですが、実家から通えるという安易な理由で決めてしまいました。ただ、結果的には、勤務されている先生方やスタッフの皆さん、医院の雰囲気と私と相性がよく、とても有意義で楽しい半年間になりました。大学との違いは、担当する診療件数がさらに多い事、小児から高齢者まで幅広い年齢や診療内容の患者さんを診る事ができた事に加え、初診や急患の患者さんの対応をさせてもらった事で、大学での課題だった一口腔単位から診査・診断をする良い機会になりました。

今から思い返すと、行き当たりばったりな所もありましたが、研修医歯科医師として多くの事を経験する事ができ、充実した1年となりました。ご指導いただきました先生方、衛生士、関係各位の皆様には感謝しても仕切れません。

この経験を次に活かせる事ができるよう、今後も邁進していきます。